

肱川水系山鳥坂ダム建設事業
環境影響評価書
2分冊の1

平成20年3月

国土交通省四国地方整備局

まえがき

本評価書は、山鳥坂ダム建設事業に係る環境影響評価の一環として、環境影響評価法及び「ダム事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令（平成10年厚生省・農林水産省・通商産業省・建設省令第1号）」に基づき、所要の事項をとりまとめたものである。

本評価書は、製本の都合上2分冊になっています。本書（「評価書（2分冊の1）」）は、第1章～第5章及び第6章6.1.1～6.1.5を所収し、「評価書（2分冊の2）」に、第6章6.1.6～6.4、第7章～第10章及び参考資料を所収しています。

目次

ページ

まえがき

第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地	1-1
1.1 事業者の名称及び代表者の氏名	1-1
1.2 事業者の主たる事務所の所在地	1-1
第2章 対象事業の目的及び内容	2-1
2.1 対象事業の目的	2-1
2.2 対象事業の内容	2-1
2.2.1 対象事業の種類	2-1
2.2.2 対象事業実施区域の位置	2-1
2.2.3 対象事業に係るダムの堤体の形式	2-1
2.2.4 対象事業の規模	2-1
2.2.5 対象事業の総貯留量	2-4
2.2.6 対象事業に係るダムの堤体の規模	2-4
2.2.7 対象事業に係るダムの供用に関する事項	2-7
2.2.8 対象事業の工事計画の概要	2-10
第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況	3-1
3.1 地域の自然的状況	3-1
3.1.1 大気環境の状況	3-4
3.1.1.1 気象	3-4
3.1.1.2 大気質	3-10
3.1.1.3 騒音	3-12
3.1.1.4 振動	3-17
3.1.2 水環境の状況	3-20
3.1.2.1 水象	3-20
3.1.2.2 水質	3-25
3.1.3 土壌及び地盤の状況	3-37
3.1.4 地形及び地質の状況	3-40
3.1.4.1 地形	3-40
3.1.4.2 地質	3-45

3.1.5	動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況	3-50
3.1.5.1	動物	3-50
3.1.5.2	植物	3-79
3.1.5.3	生態系	3-98
3.1.6	景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況	3-106
3.1.6.1	景観	3-106
3.1.6.2	人と自然との触れ合いの活動の場	3-111
3.2	地域の社会的状況	3-114
3.2.1	人口及び産業の状況	3-120
3.2.2	土地利用の状況	3-122
3.2.3	河川、湖沼の利用及び地下水の利用の状況	3-129
3.2.4	交通の状況	3-135
3.2.5	学校、病院その他の環境の保全についての配慮が 特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況	3-139
3.2.6	下水道の整備の状況	3-147
3.2.7	環境の保全を目的として法令等により指定された地域 その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況	3-151
3.2.8	その他の事項	3-217
第4章	方法書についての意見と事業者の見解	4-1
4.1	方法書についての愛媛県知事の意見と事業者の見解	4-1
4.2	方法書についての意見の概要と事業者の見解	4-8
第5章	対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法	5-1
5.1	環境影響評価の項目	5-1
5.1.1	環境影響評価の項目の選定	5-1
5.1.2	環境影響評価の項目の選定理由	5-2
5.2	調査、予測及び評価の手法	5-5
5.2.1	環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	5-5
5.2.1.1	大気環境	5-5
5.2.1.2	水環境	5-15
5.2.1.3	土壌に係る環境その他の環境	5-29
5.2.2	生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	5-32
5.2.2.1	動物	5-32
5.2.2.2	植物	5-45
5.2.2.3	生態系	5-55
5.2.3	人と自然との豊かな触れ合いの確保	5-63

5.2.3.1	景観	5-63
5.2.3.2	人と自然との触れ合いの活動の場	5-67
5.2.4	環境への負荷の量の程度	5-73
5.2.4.1	廃棄物等	5-73
第6章	環境影響評価の結果	6.1.1-1
6.1	調査の結果の概要並びに予測及び評価の結果	6.1.1-1
	[環境の自然的構成要素の良好な状態の保持]	
6.1.1	大気質（粉じん等）	6.1.1-1
6.1.1.1	環境影響評価の手順	6.1.1-1
6.1.1.2	調査結果の概要	6.1.1-3
6.1.1.3	予測の結果	6.1.1-30
6.1.1.4	環境保全措置の検討	6.1.1-83
6.1.1.5	事後調査	6.1.1-85
6.1.1.6	評価の結果	6.1.1-85
6.1.2	騒音	6.1.2-1
6.1.2.1	環境影響評価の手順	6.1.2-1
6.1.2.2	調査結果の概要	6.1.2-2
6.1.2.3	予測の結果	6.1.2-12
6.1.2.4	環境保全措置の検討	6.1.2-74
6.1.2.5	事後調査	6.1.2-75
6.1.2.6	評価の結果	6.1.2-76
6.1.3	振動	6.1.3-1
6.1.3.1	環境影響評価の手順	6.1.3-1
6.1.3.2	調査結果の概要	6.1.3-2
6.1.3.3	予測の結果	6.1.3-8
6.1.3.4	環境保全措置の検討	6.1.3-61
6.1.3.5	事後調査	6.1.3-62
6.1.3.6	評価の結果	6.1.3-63
6.1.4	水質	6.1.4-1
6.1.4.1	環境影響評価の手順	6.1.4-1
6.1.4.2	調査結果の概要	6.1.4-2
6.1.4.3	予測の手法	6.1.4-56
6.1.4.4	予測の結果	6.1.4-128
6.1.4.5	環境保全措置の検討	6.1.4-182
6.1.4.6	事後調査	6.1.4-246

6.1.4.7	評価の結果	6.1.4-246
6.1.5	地形及び地質（重要な地形及び地質）	6.1.5-1
6.1.5.1	環境影響評価の手順	6.1.5-1
6.1.5.2	調査結果の概要	6.1.5-2
6.1.5.3	予測の結果	6.1.5-13
6.1.5.4	環境保全措置の検討	6.1.5-18
6.1.5.5	事後調査	6.1.5-19
6.1.5.6	評価の結果	6.1.5-20

以下の内容は、評価書（2分冊の2）に所収しています。

[生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全]

6.1.6	動物（重要な種及び注目すべき生息地）	6.1.6-1
6.1.6.1	環境影響評価の手順	6.1.6-1
6.1.6.2	調査結果の概要	6.1.6-2
6.1.6.3	予測の結果	6.1.6-301
6.1.6.4	環境保全措置の検討	6.1.6-504
6.1.6.5	事後調査	6.1.6-533
6.1.6.6	評価の結果	6.1.6-535
6.1.7	植物（重要な種及び群落）	6.1.7-1
6.1.7.1	環境影響評価の手順	6.1.7-1
6.1.7.2	調査結果の概要	6.1.7-2
6.1.7.3	予測の結果	6.1.7-104
6.1.7.4	環境保全措置の検討	6.1.7-150
6.1.7.5	事後調査	6.1.7-191
6.1.7.6	評価の結果	6.1.7-191
6.1.8	生態系（地域を特徴づける生態系）	6.1.8-1
6.1.8.1	環境影響評価の手順	6.1.8-1
6.1.8.2	山鳥坂ダム周辺の自然環境の概要	6.1.8-3
6.1.8.3	調査結果の概要	6.1.8-6
6.1.8.4	予測の結果	6.1.8-83
6.1.8.5	環境保全措置の検討	6.1.8-154
6.1.8.6	環境影響を低減するために実施する対応	6.1.8-157
6.1.8.7	事後調査	6.1.8-158
6.1.8.8	評価の結果	6.1.8-158

[人と自然との豊かな触れ合いの確保]

6.1.9 景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	6.1.9-1
6.1.9.1 環境影響評価の手順	6.1.9-1
6.1.9.2 調査結果の概要	6.1.9-2
6.1.9.3 予測の結果	6.1.9-12
6.1.9.4 環境保全措置の検討	6.1.9-17
6.1.9.5 事後調査	6.1.9-18
6.1.9.6 評価の結果	6.1.9-18
6.1.10 人と自然との触れ合いの活動の場	
（主要な人と自然との触れ合いの活動の場）	6.1.10-1
6.1.10.1 環境影響評価の手順	6.1.10-1
6.1.10.2 調査結果の概要	6.1.10-3
6.1.10.3 予測の結果	6.1.10-22
6.1.10.4 環境保全措置の検討	6.1.10-62
6.1.10.5 事後調査	6.1.10-69
6.1.10.6 評価の結果	6.1.10-70

[環境への負荷の量の程度]

6.1.11 廃棄物等（建設工事に伴う副産物）	6.1.11-1
6.1.11.1 環境影響評価の手順	6.1.11-1
6.1.11.2 予測の結果	6.1.11-2
6.1.11.3 環境保全措置の検討	6.1.11-6
6.1.11.4 事後調査	6.1.11-9
6.1.11.5 評価の結果	6.1.11-9
6.2 環境の保全のための措置	6.2-1
6.2.1 環境保全措置の比較検討及び内容	6.2-1
6.2.2 環境保全の見地からの全般的な取り組み	6.2-7
6.3 環境の状況の把握のための措置	6.3-1
6.3.1 環境の状況の把握のための措置の基本方針	6.3-1
6.3.2 事後調査の内容	6.3-2
6.4 対象事業に係る環境影響の総合的な評価	6.4-1

第7章 環境影響評価に係る業務の一部を委託された者の名称、

代表者の氏名及び主たる事務所の所在地	7-1
7.1 委託された者の名称及び代表者の氏名	7-1
7.2 委託された者の主たる事務所の所在地	7-1

第8章 準備書についての意見と事業者の見解	8-1
8.1 準備書についての愛媛県知事の意見と事業者の見解	8-1
8.2 準備書についての意見の概要と事業者の見解	8-7
第9章 評価書作成に当たっての準備書記載事項との相違の概要	9-1
第10章 評価書補正に当たっての評価書記載事項との相違の概要	10-1

参考資料

- 参考資料-1 ダム事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令
- 参考資料-2 大気環境
- 参考資料-3 水環境
- 参考資料-4 動物の確認種一覧
- 参考資料-5 植物の確認種一覧
- 参考資料-6 用語集
- 参考資料-7 生態系の類型区分検証結果
- 参考資料-8 カラ岩谷の化石産出地から発掘された動物化石
- 参考資料-9 評価書に対する国土交通大臣意見